

(社)日本原子力学会  
第39回倫理委員会議事要旨

日 時 H20.7.11(金)9:45~12:10  
場 所 日本原子力研究開発機構青山分室  
出席者 北村、大場、班目、小沢、鐘ヶ江、作田、杉本、谷、辻、鳥飼、三好、宮越、  
矢野(13名)

配布資料

- 資料 39 - 1 第 38 回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 39 - 2 第 10 回「原子力に関する倫理研究会」開催(最終案)
- 資料 39 - 3 続 原子力を中心とした技術者の倫理ケースブック(ドラフト)
- 資料 39 - 4 2008 年秋の大会(9/4)企画セッション提案書
- 資料 39 - 5 学生連絡会からのリクエストについて

議事

1. 資料 39 - 1 により前回議事要旨を確認した。
2. 杉本委員より資料 39 - 2 を用いて第 10 回「原子力に関する倫理研究会」の開催案の説明があり、最終確認を行った。
3. 作田委員より資料 39 - 3 を用いて新しい倫理ケースブックの編集作業進捗状況と内容の説明があった。各事例の末尾には、参照すべき特に重要な行動の手引は条文まで、関連手引はタイトルまでの記載とすることにした。記載する手引の選別は事例の内容をチェックした担当委員が実施し、作田委員に連絡することとした。本のタイトルは「続」でなく「」のような形とすること、副題を工夫して内容が一新されたことを強調することとした。副題等について各委員がアイデアを出し合うが、最終決定は作田委員に一任することを確認した。8 月初めには入稿できるよう編集作業を進めること、印刷部数は販売予想数を基に判断することとした。
4. 小沢委員より資料 39 - 4 を用いて 2008 年秋の大会企画セッション「不正・不適切事例の再発防止策をどうみるか・・・倫理委員会の視点から」の説明があった。学会誌やホームページでの宣伝文が紹介され、今後さらにメール等でも宣伝していくこととした。企画セッションでの発表内容に関連して、鳥飼委員より原子力設備に係る不正・不適切な行為と再発防止の評価検討タスクの作業内容の報告があった。各社が出してきた再発防止策と、その後タスクで実施したアンケート結果をタスクとして評価すること、その結果を各社に伝えたいので企画セッションでの発表を行うことが了承された。なお、企画セッションの報告を学会誌に掲載してもらおうべく、編集委員会に申し込むこととし、その執筆者の選任は小沢委員と鳥飼委員に一任された。また、タスクの作業全体の報告をまとめ、和文論文集などに投稿する方向で検討することとなった。

5. 第 11 回「原子力に関する倫理研究会」の企画について意見交換を行った。編集中の倫理ケースブックを用いたケーススタディを中心とし、東京大学のグローバル COE プログラムとの共同主催とすることを確認した。ケーススタディを学生だけで実施すると、社会を知らない者の「きれいごと」は実社会では通用しないのではないかという学生の懸念をぬぐいきれないこと、社会人にはない学生の発想は社会人にとってもよい刺激となると考えられることから、学生と社会人が一緒で行うグループディスカッションを実施する方向で検討することとなった。学生枠は 16 人程度、社会人枠は 24 人程度とし、社会人の参加は有料として開催趣旨をよく理解したうえでの参加を広く求めていくこととした。開催日は暫定的に 11 月 14 日（金）とした。
6. 大場副委員長より資料 39 - 5 を用いて学生連絡会から倫理委員会へ 8 月 2 日開催の勉強会への講師等の派遣依頼があったことが報告された。積極的に対応することとし、北村、班目、辻、鳥飼、宮越、矢野の各委員が担当することとした。なお、非常によい企画なので、学生連絡会のほうで学会誌に報告記事を書くよう要請することとした。
7. 事務局より、理事会からの倫理委員会委員が交代となったことの報告があった。
8. 大場副委員長より、第 9 回「原子力に関する倫理研究会」の報告書 CD は近々配布できる旨の報告があった。
9. 次回は 9 月 8 日（月）の 13 時半からエネルギー総合工学研究所会議室で開催することとした。